

平成23年度

# 島根大学教育学部附属学校園研究紀要

豊かな「社会生活」を創造する幼小中一貫教育の追究

豊かな「学び」をつくる子どもの育成 ～子どもの学びを開く～

2011.11

島根大学教育学部附属学校園

# はじめに

島根大学教育学部附属学校部長

小川 巖

本附属学校園では、幼小中一貫教育体制の完成を平成25年度に見据え、教育研究を行ってきました。一貫校としての教育目標は以下の通りです。

- ・新しい時代を切り拓き、社会に貢献しようとする子ども（地域や社会への貢献）
- ・豊かな感性を育み、創造的に探求し続ける子ども（豊かで確かな学力）
- ・人とかかわりを大切に、共に伸びていく子ども（豊かな人間性と自己実現）

これら教育目標達成のための研究テーマ「豊かな『社会生活』を創造する幼小中一貫教育の追求」を、平成20年度に設定し、研究に取り組んできました。豊かな社会生活を創造するためには、周りの人と共生・協働する（集団の）中・過程で、「思考力・判断力・表現力」（確かな学力）また「社会力」（豊かな人間性）等を身につけ、自己実現していくことが肝要と考えます。

これまで、「思考力・判断力・表現力」と「社会力」の育成に関して、一方は特に教科、他方は領域・活動といった二元論的に検討してきましたが、「社会力」と「思考・判断力・表現力」は教育活動全体で育つという視点から、今年度においては新たな「8つの豊かな社会生活を創造する資質や能力」を想定し、保育・授業構想や教師のはたらきかけのあり方、子どもの変容のとらえ方（評価基準）について実践的研究をすすめました。なお、昨年度と同様、今年度の研究テーマ（副題）構想や、保育・授業の設計にあたり、17名の学部教員が附属学校研究部の教員と協働しました。

また、研究4年目にあたる今年度は、これまでの研究・教育実践（学校枠を超えた合同集会・活動や乗り入れ授業、教員の異校種体験、個々教員の授業構想・実践等）の全体的成果を検討するために、幼児・児童・生徒の教育目標に関わる自己評価について調査しました。本学校園では、教育研究ブロックとして、初等前期（幼から小2）、初等後期（小3～小5）、中等部（小6から中3）を設定しています。教育研究ブロックごとに、研究スタート時の平成20年度と23年度の子どもの自己評価結果の比較を行いました。

さらには、これまでの研究成果をふまえた「単元・題材配列表」（別冊）を作成しました。保育や教科ごとに思考力・判断力・表現力等を育成する上で重要な内容を学年別に明示、系列化することで、授業・単元構想の連続的・長期的展望が可能になるよう試みました。

本年度も、松江市・島根県の教育委員会・学校から、諸先生方においでいただき、ご指導いただきました。感謝申し上げます。附属学校園の使命である、モデル校としての役割、種々の地域貢献・連携など、より一層確かなものにして行く所存でございます。皆様のご支援とご協力を、今後ともよろしくお願い申し上げます。

# 目 次

---

島根大学教育学部附属学校園の幼小中一貫教育の現状とめざすもの	1
島根大学教育学部附属学校園 幼小中一貫教育について	3
教育研究の構想	11
保育・教科部会の取り組み	
● 保 育	21
自ら考え、工夫し、伝え合う力を育む保育	
● 国 語	33
学び合いの中で個の読みを広げ深める国語学習	
● 社 会	51
子どもの発達段階に即した社会認識の育成をめざす社会科学習	
— 思考力・判断力・表現力を育てる学び合いのあり方 —	
● 算数・数学	68
豊かに考え、表現する算数・数学学習	
— 学び合いの中で、数学的な思考力・判断力・表現力を高める授業づくり —	
● 理 科	85
科学的思考力を育む学び合いの理科学習	
● 音 楽	103
学び合いの中で思考力・判断力・表現力を育む音楽学習	
● 図画工作・美術	120
豊かな造形体験を活かし、自分らしい表現を追求する図画工作・美術科学習	
— 思いをつかみ伝え合う中で思考力・判断力・表現力を育て高める —	
● 体育・保健体育	137
運動の心地よさを味わわせ、表現する力をのばす体育・保健体育学習	
— 思いや考えと作用し合う表現をめざして —	
● 技術・家庭	154
確かな知識・技術を活かし、生活を工夫し豊かにすることができる技術・家庭科学習	
— 学び合いの中から思考力・判断力・表現力を育てる授業のあり方 —	
● 外国語活動・英語	172
豊かなコミュニケーションを図ろうとする子どもの育成をめざした外国語活動・英語学習	
● 保育・教科部会の成果と課題	189

---

島根大学教育学部  
附属学校園の取り組み

～基本的な考え～

# （保育・教科部会の取り組み）

# おわりに

本学校園の一貫教育研究は、これまで11年間の学びを見通して各附属校園共通の育てたい子どもの姿をとらえたうえで、次のとおりテーマを掲げて歩んできました。

- ＜一年次＞「子どもの学びをとらえる」 － 子どもの思いや願い
- ＜二年次＞「子どもの学びをつなぐ」 － 個と個・個内・個と学びの対象
- ＜三年次＞「子どもの学びをつむぐ」 － より広くより深くより関連づけて

そして、＜四年次＞の本年度は、「子どもの学びを開く」としました。「開く」には、「学び合い」をとおして、「子どもたち一人ひとりの思考力・判断力・表現力をよりしっかりと育み、自分なりによさを感じたり価値づけられるように」との願いが込められています。いうまでもなく、一連の「とらえる」・「つなぐ」・「つむぐ」は、別個に存在するのではなく、それぞれが有機的に絡み合った学びを意味します。同じように「開く」には、これまでのテーマをも包含した子どもたちの学びを意図しながらも、それをさらに深めたいとの思いがあります。そして、そこには、子どもたち一人ひとりの持ち味・思いを生かし、個の学びの「よさ」に着目しようとする強い意思を感じます。安易に教師から与えるのではなく、こうした子どもたち個人がもつ可能性としての学びの力を育もうとする教育活動を創ることにより、本学校園一貫教育における実践的研究が、さらに進展することを期待しています。

このように、本学校園では、これまで「学び合い」に注視し、「豊かな『学び』をつくる子どもの育成」を追究してきました。本学校園の「学び合い」は、決して子ども任せの「かかわり」・「学び」を求めるものではありません。むしろ、教師の積極的で適切なはたらきかけがあるから、子どもたちの能動的な「学び合い」が成立すると考えます。そうしたことから、常々、子どもたちとの真摯な「向かい合い」を大切にと呼びかけています。本研究紀要では、そうした子どもたちとの「向かい合い」を常に意識しながら、「子どもの学びを開く」ことを問いつづけてきた実践的研究の一端が執筆されています。

本研究発表会の開催及び本研究紀要をまとめるにあたりましては、執筆いただいた共同研究者の先生方はもとより、県・市の教育委員会関係等からの本研究発表会助言者の先生方に懇切丁寧なご指導・ご助言をいただきました。心より厚くお礼申し上げます。

本附属学校園の一貫教育は、本格実施より4年目を迎え、組織面では一定程度の確立と継続的な運営の見通しをもつことができるようになりました。しかし、なおも課題が多く見出されており、さらに人的、物的環境の整備をすすめるとともに、内容・方法等の「質的充実」を図る必要があると考えています。今後とも、本学校園の研究・実践に対しまして、諸先生方の温かいご理解とご批評をいただきますようよろしくお願い申し上げます。

平成23年11月

学校園長 佐々有生

◆ 共同研究同人一覽（附属学校園教職員並びに教育学部教員） ◆

島根大学教育学部附属学校部長 小川 巖  
 島根大学教育学部附属学校園長 佐々 有生  
 島根大学教育学部附属中学校副校長 大島 悟  
 島根大学教育学部附属小学校副校長 永井 孝夫  
 島根大学教育学部附属幼稚園副園長 赤木 寛子

【保育】

[幼] ○内田 祐 加納 美紀 石塚のり子  
 名越 絵美 阿武 麻衣 福島由美子  
 福光 裕子 安部 美幸 金崎沙耶香  
 金岡真貴子  
 [学] 野津 道代

【国語】

[小] 中村 紀恵 藤原 さり 喜多川昭博  
 恩田 一穂  
 [中] ○川井 史生 永野 信吾 籠橋 剛  
 [学] 富安 慎吾

【社会】

[小] 陶山 昇 高木 敏光 和田 倫寛  
 岩崎 明梨  
 [中] ○前島美佐江 竹崎 葉子 原 義昭  
 [学] 加藤 寿朗 福間 敏之

【算数・数学】

[小] 仙田 淳一 徳永 勝俊  
 [中] ○後藤 幸広 安野 洋 大谷 由香  
 [学] 御園 真史

【理科】

[小] 伊藤 英俊 深田 剛生 釜田美紗子  
 関野 淳也  
 [中] ○高橋 里美 福島 章洋 園山 裕之  
 [学] 松本 一郎 大谷 修司

【音楽】

[小] 神門 洋子 上代 美樹  
 [中] ○小村 聡 岡 伸彦  
 [学] 藤井 浩基

【体育・保健体育】

[小] ○小草 康弘 小林 敏朗  
 [中] 上田亜由美 柏木 裕至 岡田 歩美  
 [学] 廣兼 志保

【図画工作・美術】

[小] ○三桐 撰夫  
 [中] 錦織 秀行  
 [学] 有田 洋子 藤田 英樹

【技術・家庭】

[小] 竹吉 昭人  
 [中] ○後藤康太郎 井上富美子  
 [学] 長澤 郁夫 高橋 哲也

【外国語活動・英語】

[小] 喜多川昭博 福島 歩惟 片寄メーガン  
 [中] ○高田 純子 須田 香織 岩崎 香織  
 [学] 猫田 英伸 縄田 裕幸

【子ども支援(特別支援教育・養護教諭)】

[幼] 福島由美子  
 [小] 宮崎 紀雅 野津 道人 三井久美子  
 安部かおり 小川真由子  
 [中] 奈良井 正 片寄翔一郎 橋本千代美

○：主任 [幼]：幼稚園 [小]：小学校 [中]：中学校 [学]：学部共同研究員

---

平成23年11月 印 刷

平成23年11月 発 行

発 行 島根大学教育学部附属学校園

島根大学教育学部附属幼稚園 〒690-0882 松江市大輪町416-4

附属小学校 〒690-0882 松江市大輪町416-4

附属中学校 〒690-0824 松江市菅田町167-1

附属学校部 <http://chidori.shimane-fuzoku.ed.jp/>

印 刷 (有)木次印刷

〒699-1312 雲南市木次町山方630-5

---